

2025(令和 7)年度 事業実施状況

I 先端科学技術推進機構

1 シンポジウム

名称：第30回関西大学先端科学技術シンポジウム（2026年1月22日～23日）
 セッション参加延べ人：1,315人 開催形式：対面開催
 テーマ：“Beyond SDGs” Well-being 社会のための科学技術

(特別講演)

開催日	演題	講演者
2026.1.22	2050年の世界をめざして	吉野 彰 旭化成株式会社 名誉フェロー 産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際共同研究センター長 技術研究組合 リチウムイオン電池材料評価研究センター 理事長 名城大学大学院 理工学研究科 終身教授・特別荣誉教授 九州大学荣誉教授 2019年 ノーベル化学賞受賞

(4 研究部門によるメインテーマ関連セッション)

開催日	部門	セッションテーマ	演題	講演者
2026.1.22	N	大学×企業が生み出すイノベーションの可能性	【招待講演】 DNA オリガミの技術的特徴とその検査応用	齋藤 敬太 Cranebio 株式会社 取締役 CTO
			AI と再生医療技術で未来の海を守るサンゴ礁再生の新たな挑戦	上田 正人 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授
			ナノスパイクが拓く新しい感染症対策	伊藤 健 システム理工学部 機械工学科 教授
	I	分野横断で挑む社会的情報のトラスト形成	【招待講演】 偽・誤情報対策におけるニューストラストの重要性	藤代 裕之 法政大学 社会学部 メディア社会学科 教授
			オンラインコメントがニュースの受容に与える影響	安尾 萌 立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員
			情報トリアージ：人と計算機の協調による情報の取捨選択	森野 穰 (大学院生)
2026.1.23	B	ヒトの動きとモノの動きを分析する	【招待講演】 ドローン小包配達スケジューリングのための混合整数最適化モデリング	軽野 義行 京都工芸繊維大学 教授
			仮想空間内のヒトの移動感覚の変容	●辰巳 太郎 (学部生)、庄司 匠社 (大学院生) 小谷 賢太郎 システム理工学部 機械工学科 教授 鈴木 哲 システム理工学部 機械工学科 准教授 朝尾 隆文 システム理工学部 機械工学科 助教

※●は講演者

(センターによる発表セッション)

開催日	センター	演題	講演者
2026.1.22	社会空間情報科学研究センター	【招待講演】 標準化が支える 3D 都市モデルのエコシステム Project PLATEAU を事例として	黒川 史子 アジア航測株式会社
		点群情報処理の応用とその実用化	松村 峻平 (大学院生)
		映像情報処理の応用とその実用化	田中 超 (大学院生)
	地域再生センター	【招待講演】 スポーツ情報処理の応用とその実用化	山田 貴之 クロスセンシング株式会社
		地域再生センターの取組について	北詰 恵一 環境都市工学部 都市システム工学科 教授
		多様な主体協働型の大学連携による地域再編活動 ー大阪府河内長野市での10年の実践活動についてー	関谷 大志朗 一般社団法人カンデ
		地域を横から、日本を逆さに見るまちづくり 一越前大野での建築環境デザインによる関係人口創出の可能性	川口 昶司 横町編集部
		京都府男山団地における小さなまちづくりの実践	藤本 恭輔 一般社団法人カンデ
		中山間地域の地域再生、実践20年の活動成果と今後の展開	植地 惇 一般社団法人カンデ、NPO 法人佐治倶楽部
	医工薬連携研究センター	概日リズム解析に基づいた光免疫療法の最適化	山口 賀章 化学生命工学部 生命・生物工学科 准教授
		金属表面加工による医用 X 線の散乱低減	山口 聡一郎 システム理工学部 物理・応用物理工学科 教授

(研究グループによる発表セッション)

開催日	研究グループ	演題	講演者	
2026. 1. 22	CPS 実現に向けたバイオイン ターフェース	【招待講演】 頑強な人工嗅覚機能を実現する金属酸化ナノ材料・デバイス学理	柳田 剛 東京大学 工学系研究科 応用化学専攻 教授	
		SiO ₂ を用いた ReRAM 素子の電極材料依存性	●佐藤 伸吾 谷山 達樹 (関西大学)、川田 滋満 (関西大学) 渡邊 終樹 (関西大学)、富永 拓馬 (関西大学)	
		二次元物質を用いたシナプスデバイスの創出	●金谷 瞳 (大学院生) 稲田 貢 システム理工学部 物理・応用物理学 教授 上野 啓司 埼玉大学 山本 真人 システム理工学部 物理・応用物理学 准教授	
	橋梁・機械設備の健全性モニタ リング	研究グループの概要 一環境発電による橋梁の構造健全性モニタリングシステムー	●小金沢 新治 システム理工学部 機械工学科 教授 荒木 貴弥 (大学院生) 呂 仁国 システム理工学部 機械工学科 教授 谷 弘詞 システム理工学部 機械工学科 教授	
		【招待講演】 社会インフラの持続可能な維持管理に関する技術革新について	高瀬 和男 京都大学大学院 地球環境学 客員教授	
		AE センサおよび加速度センサによる樹脂保持器軸受の運転状態モ ニタリング	●中居 丈翔 (大学院生) 呂 仁国 システム理工学部 機械工学科 教授 谷 弘詞 システム理工学部 機械工学科 教授 小金沢 新治 システム理工学部 機械工学科 教授	
		タイヤ組込み摩擦発電機を用いたタイヤマウントセンサの駆動	●伊崎 吉紀 (大学院生) 谷 弘詞 システム理工学部 機械工学科 教授 呂 仁国 システム理工学部 機械工学科 教授 小金沢 新治 システム理工学部 機械工学科 教授	
	人工物・システムの設計・製造・ 運用における暗黙知	ボランタリーの暗黙知と人工物の安全 — 見えないものを見ようと する力	菅原 慎悦 社会安全学部 安全マネジメント学科 准教授	
		土木分野における暗黙知	一井 康二 社会安全学部 安全マネジメント学科 教授	
		自動車産業における暗黙知	伊藤 大輔 社会安全学部 安全マネジメント学科 教授	
	メタバースによる文化財の発 展的活用に関する研究	【招待講演】 子どもたちを対象とした VR の活用による教育プログラムの実践	加藤 和歳 九州歴史資料館 研究員	
		エジプト古代壁画の修復	吹田 真里子 先端科学技術推進機構 非常勤研究員	
		エジプト古代壁画の仮想修復	中内 海輝 (大学院生)	
		文化財現場の仮想化と活用	安室 喜弘 環境都市工学部 都市システム工学科 教授	
	2026. 1. 23	ソフトコンピューティング応 用によるウェルビーイング社 会創生	対話型進化計算によるウェルビーイング社会創生	●徳丸 正孝 システム理工学部 電気電子情報工学科 教授 アイエドゥン エマヌエル システム理工学部 電気電子情報工学科 准教授
			対話型進化計算を駆使した学習者支援：可能性と展望	●アイエドゥン エマヌエル システム理工学部 電気電子情報工学科 准教授 徳丸 正孝 システム理工学部 電気電子情報工学科 教授
ウェルビーイング社会に向けた健康支援コンピューティング			●堀口 由貴男 総合情報学部 総合情報学科 教授 大野 祥嵩 (大学院生)、劉 景南 (大学院生)	
生活・運動支援のためのセンサ情報の利用と分析			●広兼 道幸 総合情報学部 総合情報学科 教授 賀屋 颯真 (学部生) 高柳 来望 (学部生)	
アンサンブル型機械学習による BCI の識別モデル			●林 勲 総合情報学部 総合情報学科 教授 入江 穂乃香 兵庫県立大学 鶴背 慎二 パナソニック コネクスト株式会社	
ライフスタイル変化に適応し たまづくり		【招待講演】 御堂筋道路空間再編による都市空間のリノベーションについて	入谷 琢哉 大阪市建設局 企画部企画課 道路空間再編担当・ 課長	
		自転車・電動キックボードの走行空間に関する分析	井ノ口 弘昭 環境都市工学部 都市システム工学科 教授	
		都市公園の持つ環境特性と人々の利用行動との関係性	●木下 朋大 環境都市工学部 都市システム工学科 助教 尾崎 平 環境都市工学部 都市システム工学科 教授	
災害にフレキシブルな緊急救 命避難支援		【招待講演】 安全・安心に役立つ柔軟な無線通信ネットワーク技術	行田 弘一 芝浦工業大学 工学部 情報・通信工学課程 教授	
		避難時の他者追従行動のモデル化と検証	●校條 大成 (大学院生) 川口 寿裕 社会安全学部 安全マネジメント学科 教授	

※●は講演者

開催日	研究グループ	演題	講演者
2026. 1. 23	災害にフレキシブルな緊急救命避難支援	マルチエージェントシミュレーションを用いた避難誘導方策の効果検証 ～関西大学キャンパスを対象として～	●藤原 妃寧 (学部生) 尹 禮分 環境都市工学部 都市システム工学科 教授
	社会安全イノベーションに貢献する大阪梅田におけるネットワークハブ構築	社会安全イノベーションに貢献する大阪梅田におけるネットワークハブは構築できたのか？	奥村 与志弘 社会安全学部 安全マネジメント学科 教授
		【招待講演】 人中心の道路空間再編整備による持続可能な都市近接性の創出 ー 大阪市の取組み	中上 貴裕 大阪市建設局 企画部 道路空間再編担当・課長代理
	マイクロバイオーーム	【招待講演】 モバイル空間統計を用いた災害時人流分析の最前線 ー 能登半島地震の事例	マス エリック 東北大学 准教授
		微生物細胞機能操作を志向した遺伝子標的型タンパク質の細胞内直接送達法の開発	山中 一也 化学生命工学部 生命・生物工学科 教授
		バクテリオファージを用いた菌叢改変技術の開発	岡野 憲司 化学生命工学部 生命・生物工学科 准教授
		細菌膜小胞を介した腸内環境制御の可能性	山崎 思乃 化学生命工学部 生命・生物工学科 教授
	人間・環境系の生体応答・感覚モデル	海洋性スフィンゴ脂質の摂取による皮膚バリア機能改善における腸内細菌叢の関与	細見 亮太 化学生命工学部 生命・生物工学科 教授
		主旨説明	都築 和代 環境都市工学部 建築学科 教授
		季節の睡眠と体型との関係に関する研究	王 博 (大学院生)
	バイオイニターフェイス	暑熱環境における手掌冷却が睡眠時の生理反応に及ぼす影響	飯原 遼太 (大学院生)
		睡眠時の温熱環境評価に関する研究	都築 和代 環境都市工学部 建築学科 教授
		開会挨拶	大矢 裕一 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授
		関大メディカルポリマーの現在地と未来	大矢 裕一 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授
		医療応用を目指した動的構造ポリマー	宮田 隆志 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授
		関節修復材料としての自己組織化ペプチドハイドロゲルの医療応用	平野 義明 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授
		バイオアダプティブポリマーの獲得と骨疾患治療への展開	岩崎 泰彦 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授
		レーダーを用いた非侵襲による循環器機能評価	鈴木 哲 システム理工学部 機械工学科 准教授
		体内内の力学的環境を再現する実験・数理シミュレータの開発とその希少疾患用医療機器開発への応用への取り組み	田地川 勉 システム理工学部 機械工学科 教授
		三次元組織の凍結保存を可能にする細胞内浸透ポリマーの開発	田岡 裕輔 先端科学技術推進機構 特別任命助教
		免疫応答の抑制を志したタンパク質へのポリマーコンジュゲーション	奥野 陽太 化学生命工学部 化学・物質工学科 助教
		体液で瞬時に固まる DNA 四重鎖ゲルの 10 年	葛谷 明紀 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授
		触情報の位置知覚生成モデルとその実験的評価	小谷 賢太郎 システム理工学部 機械工学科 教授
		ペプチド固定化技術を活用した循環器系デバイス基材の高機能化	柿木 佐知朗 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授
	塩基性キトサン溶液を用いたヒドロゲルの調製と機能評価	古池 哲也 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授	
	miRNA の細胞内デリバリー実現に向けた高分子キャリアの設計	河村 暁文 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授	
	閉会挨拶	大矢 裕一 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授	

※●は講演者

2 研究部門別発表会

No. (参加人数)	開催日	部門	テーマ	講演者	会場
No. 75 (42名)	2025. 5. 8	E (環境・エネルギー・社会) 研究部門	フィールドワークで探求する環境保全と防災	安田 誠宏 環境都市工学部 都市システム工学科 教授 森 祐紀 公益財団法人高輝度光科学研究センター研究員	第4学舎 3号館 3402教室
No. 76 (92名)	2025. 6. 26	N (新物質・機能素子・生産技術) 研究部門	錯体化学が拓く生物無機化学と光材料化学分野の最前線	中井 美早紀 化学生命工学部 化学・物質工学科 准教授 長谷川 美貴 青山学院大学 理工学部 化学・生命科学科 教授	第4学舎 4号館 4202教室
No. 77 (35名)	2025. 10. 14	B (生命・人間・ロボティクス) 研究部門	日本発創薬の最前線 ～新規モダリティへの挑戦～	住吉 孝明 化学生命工学部 生命・生物工学科 教授 本田 雄 SparxBiotech Co.Ltd. in China 副社長 近藤 裕郷 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長 特任補佐	第4学舎 3号館 3402教室
No. 78 (68名)	2025. 10. 30	N (新物質・機能素子・生産技術) 研究部門	金属錯体の光機能化学の最前線	石田 齊 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授 長谷川 靖哉 北海道大学大学院工学研究院 応用化学部門 教授	第4学舎 4号館 4301教室
No. 79 (62名)	2026. 1. 29	N (新物質・機能素子・生産技術) 研究部門	異種材料の融合 ―ハイブリッド材料の設計と応用	宮田 隆志 化学生命工学部 化学・物質工学科 教授 中條 善樹 京都大学大学院工学研究科 名誉教授	第4学舎 4号館 4201教室

3 研究成果・広報刊物

- 『先端科学技術推進機構 バンフレット』(900部)
- 『技苑』「研究者総覧」(900部)、「研究者総覧 英語版」(700部)、「技苑」「2025年度研究成果報告書」(900部)
- 『先端機構ニュース Re:ORDIST』(181号 1,600部, 182号 1,300部)
- 『第30回 関西大学先端科学技術シンポジウム講演集』(100部)
- 『第30回 関西大学先端科学技術シンポジウム (リーフレット)』(7,500部)

II 研究グループ・研究会

1 研究グループ(11グループ)

- メタバースによる文化財の発展的活用に関する研究グループ (研究期間：2023年度～2025年度)
- CPS実現に向けたバイオインターフェース研究グループ (研究期間：2023年度～2025年度)
- マイクロバイオーム研究グループ (研究期間：2023年度～2025年度)
- 人間・環境系の生態応答・感覚モデル研究グループ (研究期間：2023年度～2025年度)
- 社会安全イノベーションに貢献する大阪梅田におけるネットワークハブ構築研究グループ (研究期間：2023年度～2025年度)
- 橋梁・機械設備の健全性モニタリング研究グループ (研究期間：2024年度～2026年度)
- バイオインターフェイス研究グループ (研究期間：2024年度～2026年度)
- 災害にフレキシブルな緊急救命避難支援研究グループ (研究期間：2024年度～2026年度)
- 人工物・システムの設計・製造・運用における暗黙知研究グループ (研究期間：2024年度～2026年度)
- ソフトコンピューティング応用によるウェルビーイング社会創生研究グループ (研究期間：2025年度～2027年度)
- ライフスタイル変化に適応したまちづくり研究グループ (研究期間：2025年度～2027年度)

2 研究会(6研究会)

- 金属加工プロセス高度化研究会 (研究期間：2023年度～2027年度)
- 深層学習とその応用研究会 (研究期間：2023年度～2025年度)
- 元素循環技術研究会 (研究期間：2023年度～2027年度)
- 流体科学研究会 (研究期間：2024年度～2028年度)
- 理科教育研究会 (研究期間：2025年度～2029年度)
- マルチモーダルセンシング研究会 (研究期間：2025年度～2027年度)

III 戦略的研究推進センター、医工業連携研究センター 他

1 医工業連携研究センター

- 医工業連携研究費
 - ・概日リズム解析に基づいた光免疫療法の最適化 (研究期間：2024年度～2025年度)
 - ・金属表面のX線散乱低減による医療放射線防護技術の研究 (研究期間：2025年度～2026年度)

2 関大メディカルポリマー研究センター

- ・関西大学研究ブランディング事業
「『人に届く』関大メディカルポリマーによる未来医療の創出」 (研究期間：2021年度～2025年度)

3 講演会等

- 開大メディカルポリマーシンポジウム（1件）
- 研究部門による外国語講演会（3回）
- 招へい研究者による特別講演会（3回）
- 医工薬連携研究センター 特別講演会（1回）

IV 産学官連携への取組み

1 展示会への出展

開催日	名称	出展内容	会場	主催
2025. 8. 21～22	大学見本市 2025 ～イノベーション・ジャパン～	「質量を変化させてどんな地震にも効く新しいダンパー装置」 池永 昌容（環境都市工学部 教授） 「環境発電による橋梁の予知保全システム」 小金沢 新治（システム理工学部 教授） 「藻類由来多糖を複合化した強靱なサステイナブルゴム材料」 曾川 洋光（化学生命工学部 准教授） 「アリザリンレッドSを用いる電気化学的な過酸化水素製造」 福 康二郎（環境都市工学部 准教授） 「シンプル回路で動作する多値型不揮発性メモリ」 本多 周太（システム理工学部 教授） 「音色が視える音楽制作インタフェース」 山西 良典（総合情報学部 教授）	東京ビッグサイト	国立研究開発法人 科学技術振興機構
2025. 11. 5～6	きたしんビジネスマッチング フェア 2025	関西大学における産学官連携の取組	マイドームおおさか	北おおさか信用金庫

2 セミナー・研究会活動

(1) 新技術説明会

主催：国立研究開発法人 科学技術振興機構

開催日	演題	講師	会場
2025. 9. 18	投影画像を見るだけでストレスへの耐性が推定できる技術	小谷 賢太郎（システム理工学部 教授）	オンライン開催
	新規ピアラスト型シリコン貫通電極（TSV）及びその製造方法	新宮原 正三（システム理工学部 教授）	
	環境発電による橋梁の構造健全性モニタリングシステム	小金沢 新治（システム理工学部 教授）	
	新規液晶エポキシ変性によるシアネートエステル樹脂の高放熱化・強靱化	原田 美由紀（化学生命工学部 教授）	
	アリザリンレッドSを用いる電気化学的な過酸化水素製造法	福 康二郎（環境都市工学部 准教授）	
	音情報編集のための音色を可視化するインタフェース	山西 良典（総合情報学部 教授）	
	長周期～短周期振動に対応できる新規制震技術	池永 昌容（環境都市工学部 教授）	
	アルギン酸で強靱化サステイナブルゴム材料の開発	曾川 洋光（化学生命工学部 准教授）	
2026. 2. 26	機能性をもつ有用細菌の細胞外小胞を量産させる技術	山崎 思乃（化学生命工学部 教授）	オンライン開催
細胞やタンパク質が付着しない双性イオンポリエステルポリウレタン	河村 暁文（化学生命工学部 教授）		

(2) はりま産学交流会

主催：はりま産学交流会

開催日	演題	講師	会場
2025. 7. 18	社員研修動画：クラブビルディング	神谷 拓（人間健康学部 教授）	ハイブリッド開催（オンライン）
2025. 10. 17	視線情報を用いたストレスレジリエンスの測定ツール開発	小谷 賢太郎（システム理工学部 教授）	

(3) 大阪商工会議所 産学連携セミナー

主催：大阪商工会議所

開催日	演題	講師	会場
2026. 2. 19	関西大学における産学連携の取組について	産学官連携コーディネーター 松井 由樹	ハイブリッド開催（オンライン）

3 外部資金獲得状況

○受託研究	52件	307,628,198円
○試験・分析	15件	5,294,800円
○学術指導費	19件	14,935,000円
○学外共同研究	133件	259,505,663円
○受託研究員	2件	264,000円
○指定寄付金	76件	94,065,636円
○その他の助成金	2件	27,180,000円

先端科学技術推進機構取扱分 合計 299件 708,873,297円 (2026年3月31日現在)

(ご参考・2024年度実績)

先端科学技術推進機構取扱分 合計 319件 699,168,983円 (2025年3月31日現在)

V 知的財産関係 [2026.3.31 時点、先端科学技術推進機構研究員のみ]

1 発明届出状況 (社会連携部 知財センターへの発明届出)

発明届出件数 : 47 件

研究部門	発明研究員					
N	石川正司	伊藤 健	岩崎泰彦	上田正人	大洞康嗣	大矢裕一
	葛谷明紀	工藤宏人	小金沢新治	谷 弘詞	中井美早紀	原田美由紀
	廣岡大祐	藤本和士	本多周太	宮田隆志	山本真人	
I	梶川嘉延	山西良典				
B	板野智昭	瀬島吉裕	山崎思乃	山中一也		
E	石川敏之	上田尚史	飛田哲男			

2 法人承継特許等出願状況 (特許協力条約 (PCTルート) に基づく国際特許出願)

発明件数 : 7 件

研究部門	発明研究員					
N	青柳誠司	奥野陽太	葛谷明紀	工藤宏人	新宮原正三	谷 弘詞
	原田美由紀					

3 法人承継特許等出願状況 (特許協力条約 (PCTルート) からの指定国移行およびパリルート出願)

発明件数 : 31 件

研究部門	発明研究員					
N	石川正司	奥野陽太	川崎英也	工藤宏人	谷 弘詞	原田美由紀
B	山中一也					

4 法人承継特許登録状況 (特許権の設定登録)

発明件数 : 35 件

研究部門	発明研究員					
N	青柳誠司	石川正司	伊藤 健	大洞康嗣	大矢裕一	葛谷明紀
	工藤宏人	新宮原正三	田實佳郎	谷 弘詞	西本明生	原田美由紀
	平野義明	本多周太				
I	寺本 央	林 勲	松島恭治	山西良典		
B	老川典夫	山中一也				
E	竹中俊英	田中俊輔	鶴田浩章	三宅孝典		

2025(令和7)年度 事業実施状況 / 科学技術振興会

<会員数> (2026年3月31日現在)

会員数55件(法人会員49件、個人会員6件)

<関西大学科学技術振興会の概要>

同振興会は、産業界と工業技術研究所が技術開発についての情報を相互に交換し、交流を深める場として、1965年に設立されました。その後、2002年に「工業技術研究所」が組織改革により「先端科学技術推進機構」と名称変更したことに伴い、同年「関西大学科学技術振興会」と改称し、現在に至っています。(※2007年度からシステム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部に改組改編)

<2025年度 事業報告(概要)>

2025年度は、活動テーマを「新たな学部や学科が創設される関西大学との関わりを深めよう」とし、8月5日には大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンで繰り広げられる関大ブースの見学会を開催いたしました。また、新たな学部や学科が創設される関西大学との関わりを深め、異業種交流会としての活動を推進してまいりました。本年度実施した事業活動の概要は、次のとおりです。

1 研究会等の実施 計5回開催

研究会の企画は、本会の学内幹事であるコーディネーターが担当し、本会会員、先端機構研究員、学生等が出席しました。

(1) <第1回研究会> 2025年5月17日(土)

2024年度「学の実化賞」受賞記念講演

演題:「カーボンニュートラルへ向けたCO₂分離ゼオライト吸着剤および吸着プロセスの開発」

講師:環境都市工学部 教授 田中 俊輔

(2) <第2回研究会> 2025年6月24日(火)

大阪・関西万博 リボンチャレンジ出展企業による講演会

(3) <創立60周年記念 第3回研究会> 2025年8月5日(火)

・見学会:大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン

・創立60周年記念式典

(4) <第4回研究会> 2025年11月29日(土)

1)2024年度「学の実化賞」受賞記念講演

演題:「京都盆地の地下水適正利用と保全に向けた技術に関する一連の研究」

講師:環境都市工学部 特別任命教授 楠見 晴重

2)グリーンエレクトロニクス工学科 紹介

システム理工学部 学部長 教授 梶川 嘉延

(5) <第5回研究会> 2026年1月22日(木)~23日(金)

「第30回先端科学技術シンポジウム」に参加

当会活動紹介をパネルにて会場展示

2 人的ネットワーク形成の促進

(1) 第30回先端科学技術シンポジウム(2026年1月22日(木)~23日(金))において、先端機構研究員との交流の場の設定

(2) 研究会時に会員同士の交流の深化を目的に、会員企業PRの場の設定

(3) 研究会にて会員、その他の出席者や学生との交流を実施

(4) 会員企業への訪問を継続して実施

(5) 会員と先端機構研究員の親睦ゴルフコンペ「機構長杯」を開催(2025年4月26日(土)、2025年11月22日(土))

(6) 会員企業への訪問を継続して実施

3 研究助成事業の企画・推進

当会表彰規程による表彰事業において助成を行いました(合計 1,080,916円)。

(1) 学の実化賞 2件2名の表彰

(2) 研究奨励賞 5件6名の表彰

4 表彰制度の推進

表彰規程による表彰審査委員会の結果、2024年度における対象につき、「学の実化賞」をはじめ各賞について、2025年度総会で表彰しました。

【学の実化賞 2件、産学連携賞 該当なし、技術開発賞 該当なし、研究奨励賞 5件】

5 広報活動の推進

当会の広報誌「What's New From ASCIKU」の各号およびWEBサイトにおいて、会員および研究員(特別会員)の特筆記事や研究成果の記事などを積極的に取り上げ、情報の共有による交流の拡大を図りました。

6 役員会・総会の開催

(1) 第1回役員会 2025年4月30日(水) 18:00~

2024年度事業報告・決算(案)、2025年度事業計画・予算・役員(案)、2025年度総会事項、表彰審査委員会

(2) 2025年度総会 2025年5月17日(土) 14:00~15:00

場所:関西大学第4学舎4号館4001教室

2024年度事業報告・決算、2025年度事業計画・予算・役員、表彰式